

○ **トライアル実施委員会**：山下（酪農大）、鎌田（日大）

1. **トライアルの目的**

CBT のトライアル試験を三年間実施する。公平性有る、より精度の高い試験システム・評価方法・実施方法確立を図る。

2. **CBT トライアル実施委員会の実務 - 何をどの委員会が検討するか（案）**

達成項目	トライアル実施委員会	一緒に検討する委員会
1) 試験システム構築	×	広報委員会（CBT のシステム、HP など）
2) 評価方法	○	広報委員会（同上）
3) 実施方法の確立	◎	-
4) トライアル試験の出題内容	◎	CBT 問題作成委員会
5) OSCE トライアルは？	○	OSCE 準備委員会

3. **実施方法について（案）**

1) 実施組織の検討	各大学に実施委員会の設置
2) 実施期間の検討	平成 25 - 27 年度（3 年間）
3) 実施場所の検討	専用室の設置（各大学のコンピュータ室等）
4) 実施学年・時期	五年・前期及び四年後期

平成 24 年度 CBT 問題の作成（第 1 回）

8 月末まで	1 大学 300 問以上（5-10 問／教員を目処）、総計＞4,800 問収集予定
1 月末まで	問題の精選・修正と採択（＞2,000 問）
2 月中	第 1 回トライアル問題作成完了
3 月末まで	試験システムの構築

平成 25 年度 第 1 回トライアル H25. 4 月-7 月（対象：5 年生・前期）

4 月～7 月末	16 大学／希望大学でトライアル試験実施
8-11 月	試験実施後の問題評価・プール問題蓄積
12 月末	試験問題・結果の統計学的分析と評価

新規 CBT 問題の収集（第 2 回）（CBT 問題作成委員会）

8 月末まで	1 大学 200 問以上、総計＞3,200 問収集予定
12 月末まで	問題の精選・修正と採択（＞2,000 問）
2 月末まで	第 2 回トライアル問題作成完了

平成 26 年度 第 2 回トライアル H26. 4 月-7 月（対象：5 年生・前期）

4 月～7 月末まで	16 大学／希望大学でトライアル試験実施
8-11 月	試験実施後の問題評価・プール問題蓄積
12 月末	試験問題・結果の統計学的分析と評価

新規 CBT 問題の収集（第 3 回）

8 月末まで	1 大学 150 問以上、総計＞2,400 問収集予定
--------	-----------------------------

12月末まで 問題の精選・修正と採択（2,000問）
2月末まで 第三回トライアル問題作成完了

平成 27 年度 第 3 回トライアル H27.4 月-7 月（対象：5 年生・前期）

4 月～7 月末 16 大学／希望大学でトライアル試験実施
8-11 月 試験実施後の問題評価・プール問題蓄積
12 月末 試験問題・結果の統計学的分析と評価

新規 CBT 問題の収集（第 4 回）

8 月末まで 1 大学 100 問以上、総計＞1,600 問収集予定
11 月末まで 問題の精選・修正と採択（＞1,200 問）
12 月末 第 4 回 トライアル試験問題作成完了
2 月末まで 本試験問題作成完了

平成 27 年度 第 4 回トライアル H28.1 月-3 月（対象：4 年生・後期）

実際に実施する時期でのシミュレーションと 4 年生で試験成績の確認

トライアル終了後の達成目標（順不同：案）

- 1 CBT 実施に要するコンピュータ、タブレット等資材、専用準備室の確保
- 2 具体的手順への馴化
- 3 プール問題の基礎的収集（約 6,000-7,500 問予定）
- 4 実施意識の共有

獣医学モデルコアカリキュラム一般目標からの出題割合案（CBT 問題作成委員会）

<OSCE トライアル実施方法（案）>

OSCE 準備委員会と協議し、実施方法、実施時期を検討する。

第 1 回 OSCE トライアル 平成 25 年度 4 月-3 月（対象：4 年生後期又は 5 年生前期）

第 2 回 OSCE トライアル 平成 26 年度 4 月-3 月（対象：4 年生後期又は 5 年生前期）

第 3 回 OSCE トライアル 平成 27 年度 4 月-3 月（対象：4 年生後期又は 5 年生前期）

(参考) 共用試験実施検討の為に提出した科研費申請書に記載した方法 (転記)

平成 25 年度

1. 第一回トライアルの実施

第一回トライアルを 16 大学の 4 年生 (約 1000 名) を対象に実施し、試験結果を分析し、設問の論理構造・識別力・困難度の推定し、問題を精選・分析し、等価な問題を派生する。

2. 第一回トライアルの実施と統計的分析

- 1) 試験解答について因子分析、項目反応理論の適用により、識別力、困難度を算出し、項目特性曲線、情報量曲線を描く。
- 2) 各被験者の正解率、各項目の正答率及び被験者の正解率の平均、各項目の正答率の平均値との相関係数を推定する。
- 3) 項目反応理論により各回答者の能力の推定値を算出する。
- 4) 平成 24 年度に作出した獣医学用語の構造化辞書(オントロジー)を拡充し、第一回トライアルでの分析を加え、等価な問題を生成する際の精度を高める。
- 5) この推定値を領域別、学年別、大学別に算出する。
- 6) これらの結果を基に、VetCBT 運営の為にシステムの改善をすすめる。

平成 26 年度

1. 第二回トライアルの実施

- 1) 第二回トライアルを 16 大学の 4 年生 (約 1000 名) を対象に実施し、試験結果を分析し、設問の論理構造・識別力・困難度の推定し、問題を精選・分析し、等価な問題を派生する。また、項目内容、識別力・困難度の情報をもとに「獣医系大学共用試験(VetCBT と呼ぶ)」を開発する。
- 2) 実技試験 (VetOSCE と呼ぶ) の項目内容、試験方法を開発する。

2. 第二回トライアルの実施と統計的分析

第一回トライアルに準じ、分析を行い、25 年度に続いて獣医学用語の構造化辞書を拡充し、第二回トライアルでの分析を加え、等価な問題を生成する際の精度を高める。

3. VetCBT 試験の実施と分析

モニター校を選定、数校において CBT を実施する。その結果を分析し、報告書として纏める。

4. CBT 運用のためのシステム開発 (継続)

トライアルと同時進行となるが、より良いシステム環境整備を平成 24 年度の項目に沿って継続研究し、平成 26 年度内に 16 大学に配備する。